

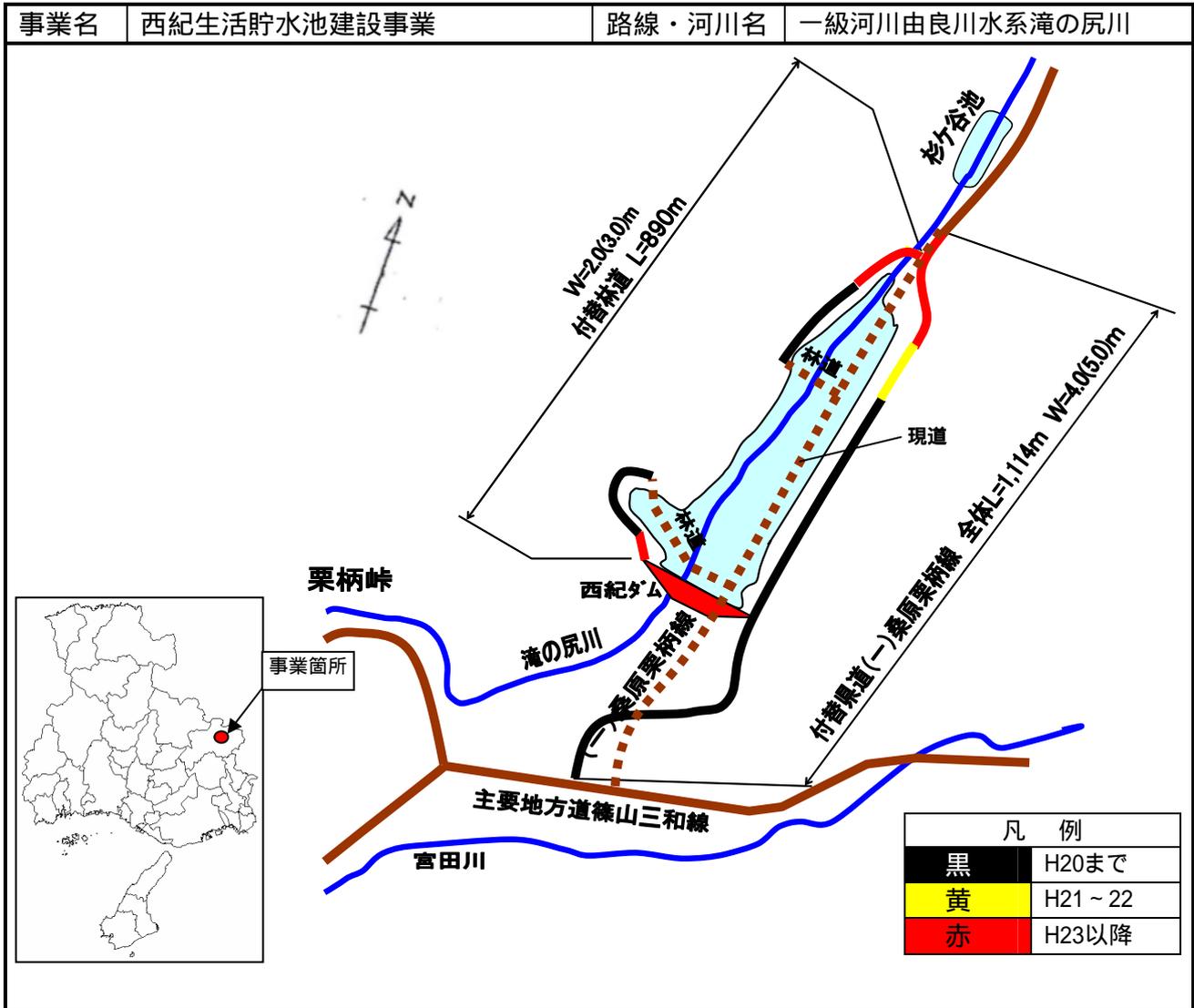
継続事業評価調書
【西紀ダム事業】

土木局河川整備課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第4回〕）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 小西 克彦 (河川開発係長 谷口徳男)	内線	4408 (4433)
事業種目	ダム事業	新規評価年度	-	現計画	前回再評価時点
事業名	一級河川由良川水系滝の尻川 西紀生活貯水池建設事業	事業採択年度	H6	総事業費	54 億円
		着工年度	H6	内用地補償費	6.4 億円
事業区間	篠山市栗柄	再評価年度	H10	完成予定年度	H25
			H15 H20	進捗率 (内用補進捗率)	41% (100%)
所在地	篠山市栗柄			残事業費	32.0 億円
					32.7 億円
事業の目的		事業内容			
滝の尻川沿川の洪水被害を防除し、河川環境の保全等に必要な維持流量の確保及び既得かんがい用水等の安定化を図るとともに、篠山市に対して新たに日量 1,000m ³ の水道用水の取水を可能にするため、西紀ダムを建設する。		現計画		前回(H20)	
		型式 ダム高 堤体積 総貯水容量 ダム計画規模	重方式コンクリートダム 26.7m 38.6千m ³ 383千m ³ (治水安全度)1/30	重方式コンクリートダム 26.7m 38.6千m ³ 383千m ³ (治水安全度)1/30	
		負担割合：治水・流水の正常な機能維持 95.4%【国1/2,県1/2】、 新規利水(水道) 4.6%【市】			
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・H21年12月、国は「できるだけダムにたよらない治水」へ政策転換するとの考え方にに基づき、現在事業中の全国のダム事業について検証を行うとの考えを示した。 ・H22年9月、国土交通大臣から西紀ダムの検証に係る検討（個別ダム検証）の要請を受け、検証に着手 9月 西紀ダム検討会議を開催し検証に着手(1月末までに5回開催) 2月 県の対応方針(素案)のパブリックコメント手続きを実施(2/8~2/21) 3月 第6回西紀ダム検討会議を経て、県の対応方針(案)を作成 【前回評価時点からの事業計画の変更概要】・なし				
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・H6年4月 建設事業開始 事業目的：洪水調節 流水の正常な機能の維持 水道用水 ・H16年10月 用地買収完了(11.6万m²) ・H20年12月 公共事業等審査会において「事業継続は妥当である。」との審査結果が出された。 ・H21年度末 付替道路：1,114mのうち830m施工済み(進捗率75%) ・H22年度以降 残る付替道路(284m)についてはH23年度末完了予定 ダム検証に係る国の判断を待って、ダム本体工事へ着手予定 				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び 対応方針 (H20年度再評価)	【審査会意見】治水利水等の効果に加え、安定した水道水源確保【対応方針】治水、利水の整備効果の早期保のため必要性は依然として高く、本体工事着手への準備が整ったこと、現行計画に基づき引き続き事業を継続する。				
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・滝の尻川は、S58年台風第10号で1,007戸、H16年台風第23号で63戸等の浸水被害を受けており、抜本的な治水対策が必要である。(被害状況は旧西紀町、旧春日町全体) また、平成12年の夏季などに深刻な水不足に見舞われたことや、近年、河川の水量が減少傾向にあることから、流水の正常な機能の維持を図る必要がある。 				
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・篠山市西紀中地区の水道水源は浅井戸やため池であり、下水道の普及及び西紀サービスエリアや老人ホーム、病院の給水量の増加により、現有施設の給水能力を大きく上回る状況が続いており、安定水源を早急に確保することが必要である。 ・個別ダム検証では、河川整備計画の目標の達成に向けて、事業中の西紀ダムを含む案(西紀ダム+河川改修)とダムを含まない代替案について評価した結果、西紀ダムを含む案が、環境への影響は比較的大きいが、最も低コストで、地域の理解を得られていることから実現性が高く、早期に治水・新規利水・流水の正常な機能維持の効果が得られるため、最も有効な対策であるとした。[詳細は、別添資料参照] ・西紀ダム事業に係る用地買収は完了しており、本体工事着工に向けた事業執行環境も整っていることから、ダム建設により、早期に以下の整備効果が発揮できる。 【治水】治水基準点(竹田川合流点：滝の尻堰)における河川整備計画の目標流量(治水安全度1/30) 55m³/sのうち、18m³/sの洪水調節が可能となることから、河川改修のみで目標を達成しようとする場合に改修が必要となる2.0kmのうち、1.8kmの区間は現況河川断面で目標流量を安全に流下させることができ、浸水戸数を13戸、浸水面積を18ha軽減する。 【新規利水】西紀簡易水道区域で必要となる水源取水量 2,170m³/日の内、自己水源(地下水など) 1,170m³/日を除いた不足分 1,000m³/日を確保することが可能 【流水の正常な機能維持】渇水時には西紀ダムから補給することで、利水基準点(滝の尻堰)において維持流量及び既得灌漑用水等で必要となる水量(0.027m³/s：普通かんがい期4/26~8/15)の安定的な確保が可能 				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比(ダム事業) B/C=1.59 ・ダム湛水などによる自然環境への影響を極力低減するため、動植物等の調査結果と学識経験者からの指導をもとに、貴重種(キンラン等)の移植など環境保全対策を行いながら事業を進めているが、供用後も引き続きこれら貴重種の保全・モニタリング等に加え、貯水池の貧酸素化の防止など水質環境に対する適切な対策を講じるなど、環境保全対策を継続して実施する。 				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> ・篠山市は、西紀中簡易水道事業の平成25年度完成を目標に水道施設整備の進捗を図っており(進捗率約89%)、西紀ダムを同時に供用する必要がある。加えて、西紀ダムの完成を求める地元要望は極めて強いなど、優先性は高い。 				
再評価の結果	事業継続	左の理由	西紀ダムについては、用地買収が完了するなど本体工事着手に向けた事業執行環境が整っており、滝の尻川流域における「治水」「新規利水(水道)」「流水の正常な機能の維持」に対する整備効果を早期に発現することが可能なため、継続して事業を実施する必要がある。		

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第4回〕）



	事業進捗状況・予定	整備効果
全体	H6～H25年度 20年間 【事業費＝54.0億円】 ダム本体工事1式、土捨場工1式 付替県道L=1114m、付替林道L=890m	—
前回 再評価まで (実績)	H6～H20年度 15年間 【事業費＝21.0億円】 地質調査、地形測量、設計等実施 H16年度に用地買収を完了 環境（水環境、生態系）調査・保全対策の検討 H16年度に付替県道工事に着手 H19年度に付替林道工事に着手	—
前回評価 ～22年度	H21～22年度 2年間 【事業費＝1.0億円】 環境（水環境、生態系）調査・保全対策の実施 付替県道工事を継続実施 ダムの検証に係る検討を実施	—
今後 3年間 (予定)	H23～H25年度 3年間 【事業費＝32.0億円】 環境（水環境、生態系）調査・保全対策の実施 H23年度にダム本体工事着手 H23年度に管理設備に着手 H25年度ダム本体完成予定	—

西紀生活貯水池 計画概要図

